

## 農作物の災害予防対策

	風 害	水 害	干 害	雪 寒 害
(1) 水 稲	<ol style="list-style-type: none"> <li>倒伏防止のため、適正な施肥に努める。</li> <li>倒伏とゆれ防止のため、深水管理とする。</li> <li>倒伏した水田では排水に努める。</li> <li>風にもまれた傷から病害が侵入しやすいので防除を徹底する。</li> <li>低気圧で潮位が上昇し、海水が用排水路を通して流入する恐れのある水田では樋門等の管理に注意する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>用排水施設、畦畔、堤等の決壊危険箇所の補強をする。</li> <li>浸水した水田では排水に努めるとともに、病虫害防除を徹底する。</li> <li>倒伏したものは穂発芽しやすいので排水に努め、刈取り期に近いものは早めに収穫する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>用水施設の整備、畦畔の漏水防止に努め、ポンプ等による計画かん水を図る。</li> <li>生育期に応じ計画的な配水及び節水栽培に努める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>晩霜の恐れがあるときは、夜間育苗トンネルを密閉しておく。</li> <li>迂回路や保温チューブの設置により水温上昇に努める。</li> </ol>
(2) 麦	<ol style="list-style-type: none"> <li>倒伏防止のため適正な施肥に努める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>排水路を整備する。</li> <li>営農排水を実施する。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>地域における適期は種の励行に努める。</li> <li>排水溝を手直しし融雪時の排水を促進する。</li> <li>年内の生育が過剰な場合は踏圧して徒長を防ぐ。</li> </ol>
(3) 大 豆	<ol style="list-style-type: none"> <li>倒伏防止のため十分に中耕培土をする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>排水路を整備する。</li> <li>営農排水を実施する。</li> <li>大雨の予想される時は、は種を雨後にはずらす。</li> <li>中耕培土を十分に行い、排水路と連結する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>開花期以降、晴天が7日以上続く場合は、畦間かん水をする。</li> <li>中耕培土を十分に行う。</li> </ol>	

	風 害	水 害	干 害	雪 寒 害
(4) 野菜	<p>1. 防風垣・防風ネットを設置する。</p> <p>2. 倒伏防止のため株元への土寄せ、不織布等の保護資材の被覆支柱の補強結束をする。</p> <p>3. 土砂の飛散を防ぐため散水する。</p> <p>4. パイプハウスはタイパー等で補強し、アーチパイプ地際が腐食している場合は、補強パイプを設置する。</p> <p>ハウスは密閉し、中の作物を保護するとともに、被覆がばたつかないようにハウスバンドを締め直す。ハウス内に風が吹き込まないように、破れなどの破損は修繕しておく。</p> <p>強風でハウスが倒壊する恐れのある場合は作物を犠牲にして被覆を切り裂く。</p> <p>野菜が栽培されていない場合はビニールを除去する。</p> <p>トンネル栽培の被覆はバンドを締め直すとともに被覆の裾を土袋等で押しておく。</p> <p>5. 風でもまれた作物は、病害に対する防除を徹底する。</p>	<p>1. ほ場の周囲に深い排水溝を設け、ほ場外に排水するよう設置する。</p> <p>2. 土壌浸透による排水を促すため、サブソイラ、バイプロソイラ等で耕盤破砕を施工しておく。</p> <p>3. 地下水位が高く水の停滞しやすいほ場においては高畝栽培とする。</p> <p>4. 敷わらやポリマルチを行い、強雨による土壌の流亡を防ぐ。</p> <p>5. 浸冠水の恐れのある場合はポンプで強制排水する。</p> <p>6. 水が引いたら病害に対する防除を徹底すると共に、葉面散布剤を混用し草勢回復を図る。さらに畦間を軽く中耕し、追肥を行う。</p>	<p>1. 乾燥が続き、水分不足が生じる前にかん水をする。</p> <p>2. かん水施設の設置に努める。</p> <p>3. 深耕と有機物の施用に努める。</p> <p>4. 敷わら、敷草、ポリマルチ等をする。</p> <p>5. ダニ、アブラムシの防除を徹底する。</p>	<p>1. パイプハウスはタイパーや突き上げ棒による補強を行い積雪による倒壊を防ぐ。除雪が実施できるようハウスの棟間隔は十分あけておく。</p> <p>2. 防風垣、防風ネットを設置し、突風を防ぐ。</p> <p>3. 保温効果の高い資材で2～3重に被覆する。</p> <p>4. 晩霜の恐れがなくなってから植え付ける。</p> <p>5. 適正な肥培管理に努め、耐寒性のある「かたづくり」にする。</p> <p>6. 融雪時にほ場に水が溜まらないよう排水に努める。</p>

	風 害	水 害	干 害	雪 寒 害
(5) 果 樹	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 防風垣・防風ネットを設置する。</li> <li>2. 果樹棚が波打たないように、中柱補強、棚線をナシの主幹部等に固定し、棚面の上下動を抑制する。</li> <li>3. 棚仕立ての果樹は枝を棚面に結束する。幼木は支柱の立て直しや結束のやり直しをする。</li> <li>4. ハウスのビニール降ろし、押えバンドの締め直しをする。強風でハウスが倒壊する恐れのある場合は作物を犠牲にしてビニールを切り裂く。</li> <li>5. 病害に対する防除を徹底する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 傾斜地では土砂の崩壊を防ぐため集排水溝を整備しておく。</li> <li>2. 水田転換園では畦立てとし、明きょ等により排水対策を行う。</li> <li>3. 浸水した水田転換園では停滞水が生じないように排水に努める。</li> <li>4. 病害虫の防除を徹底する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. かん水施設の設置に努める。</li> <li>2. 土壌改良を徹底し保水力を高める。</li> <li>3. 草生栽培園では草刈りを徹底し、敷草を励行する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 季節風を避けるように防風垣・防風ネットを整備する。</li> <li>2. 棚を中柱（突き上げ柱等）で補強をする。</li> <li>3. 積雪前に粗せん定をする。</li> <li>4. 幼木は支柱を立て結束しておく。</li> <li>5. 雪踏み、除雪をして、枝の裂け、折れを防ぐ。</li> <li>6. ハウスの雪害に対して補強と除雪に努める。</li> </ol>
(6) 飼 料 作 物	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倒伏のおそれのあるものは刈り取れる状態であれば早めに刈り取り、サイレージ調整するか青刈給与する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほ場は排水溝を整備し、水が停滞しないように排水口へ確実に連結する。</li> <li>2. 急傾斜地では土壌の浸食防止として特に板張りのよいほふく型、中間型の牧草類を選ぶ。</li> <li>3. 草地を更新する際にはところどころ帯状にグリーンベルトとして既存の牧草を残すようにする。</li> <li>4. 転換畑で湿害を受けやすいほ場では、耐湿性の強い品種を選ぶ。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. かん水施設の設置や整備をする。</li> <li>2. 耐干性の強い種類や品種の作付を行う。</li> <li>3. は種後の鎮圧作業を励行する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 牧草類などでは、特には種後の鎮圧作業を励行する。</li> <li>2. 窒素に偏重しないようにして、肥培管理を十分に行う。</li> <li>3. 雪が多く寒い地域では耐寒雪性の強い種類や品種の作付を行う。</li> <li>4. 停滞水の排水に努める。</li> </ol>

	風 害	水 害	干 害	雪 寒 害
(7) 葉 た ば こ	<ol style="list-style-type: none"> <li>ほ場周囲、畝間に前作表(ライ麦)の作付を行う。</li> <li>ほ場の周囲に防風垣、防風ネット等を設置する。</li> <li>植付から生育期までは被覆栽培をする。</li> <li>被覆栽培は資材のすそに十分土を寄せる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>排水不良地での作付けを避ける。</li> <li>排水溝を整備しておく。</li> <li>水田では高畝栽培(30cm)とし、畝間に滞水しないよう、必ず排水溝と接続し、速やかに排水する。</li> <li>被覆栽培をする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>水源を確保し、灌水施設を設置する。</li> <li>有機物を増施し、土中の保水力を高める。</li> <li>マルチ栽培をする。</li> <li>深耕し根を深く伸ばす。</li> <li>早作りにして8月上旬までに収穫を完了する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>降雪前にハウスを補強するとともに、降雪中は除雪や融雪に努める。</li> <li>ほ場周囲や畝間に本前作表(ライ麦)を作付けて空気の移動を低減し、気温を高める。</li> <li>被覆栽培をする。</li> </ol>
(8) 花 木 ・ 切 花	<ol style="list-style-type: none"> <li>ほ場の周囲に防風林、防風垣または防風ネットを設置する。</li> <li>ハウスの補強を行う。</li> <li>支柱を補強する(花木・切り花共通)。</li> <li>フラワーネットを緩みのないようしっかり張る(切り花)。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>水田の場合、高畝栽培とする。</li> <li>ほ場の周りに明きよを設置し、排水溝に接続するとともに、排水溝を点検・清掃し、速やかに排水できるようにする。</li> <li>浸冠水した場合はポンプ等で強制排水する。</li> <li>水が引いたら病害に対する防除を徹底するとともに、葉面散布剤を散布し、草勢の回復を図る。</li> <li>長雨後は干ばつの影響を受けやすいので乾燥に注意する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>敷わら葎、ポリフィルム等によるマルチ栽培を行う。</li> <li>水源を確保し、かん水施設を設置する。</li> <li>深耕と有機物の施用により、保水力の確保と根群の発達を図る。</li> <li>生育初期より適切なかん水管理に努め、根群を発達させておく。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>防風林、防風垣または防風ネットを設置する。</li> <li>降雪前にハウスを補強するとともに、降雪中は除雪や融雪に努める。</li> <li>技折れしないように支柱を立てて結束する。</li> <li>雪が多くて寒い地域では耐雪性の強い樹種や耐寒性品種の作付けを行う。</li> <li>融雪水の排水に努める。</li> </ol>

	風 害	水 害	干 害	雪 寒 害
(9) 茶	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 防風林、防風垣または防風ネットを設置する。</li> <li>2. 幼木は支柱を立て結束する。</li> <li>3. 2～3年生樹は徒長枝を剪定する。</li> <li>4. 強風により葉の損傷を受けた茶園では殺菌剤を散布する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 傾斜地茶園の植栽は等高線状にする。</li> <li>2. 排水溝を設置する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 敷草と有機物の投入を励行する。</li> <li>2. 深耕し根を深く伸ばす。</li> <li>3. 水源の確保とかん水施設を設置する。</li> <li>4. 深刈を避ける。</li> <li>5. 幼木は根が少ないため、優先的にかん水する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 防風林、防風垣または防風ネットを設置する。</li> <li>2. 敷草を励行する。</li> <li>3. 幼木園は土寄せを行う。</li> <li>4. 幼木は支柱を立て結束する。</li> </ol>
(10) 家 畜	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 畜舎、堆肥舎の補強を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 畜舎の内外が不潔になりやすいので、畜舎内に雨水、汚水が入らないように畜舎周囲の排水に心掛け、汚れた敷わらは交換し、牛床がいつも乾燥するようにする。</li> <li>2. 土砂の混入した飼料の給与は行わない。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ひさし、すだれ、日陰樹を設置し、輻射熱の防止に努める。</li> <li>2. 窓の開放等により畜舎内の通風・換気に努める。</li> <li>3. 良質な飼料の給与を行い、熱中症などの疾病防止に努める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豪雪地帯では、畜舎を補強しておく。</li> <li>2. 子畜は寒さに弱く呼吸器疾患等を起こしやすいので、隙間風を防ぐ、乾いた敷料を厚めに敷く、ヒーターの設置、ジャケットの着用等防寒措置を講ずる。</li> <li>3. 畜舎内の清掃に努めるとともに敷料を取り替え、床の保温に努める。</li> <li>4. 換気を心掛ける。</li> <li>5. 良質な飼料を十分給与するよう心掛ける。</li> </ol>